

ここで見られる海洋動物 2 : イチョウハクジラ (Mesoplodon ginkgodens)

このアカボウクジラの一種は、オスの下顎から突き出るイチョウの葉の形に似た歯から名付けられており、数は少ないですが、太平洋とインド洋を含む熱帯から温帯までの幅広い海に生息しています。報告された目撃情報の大部分は日本周辺の海での物ですが、この場所でも 1935 年から 2016 年までの間に浜辺に打ち上げられた標本の数はたったの 23 体です。2012 年には体長 4.7m のオスが鳴門の千鳥ヶ浜海岸に打ち上げられました。その骨格は現在徳島県立博物館で展示されています。

オスもメスも体長およそ 5m、体重およそ 1.5 トンから 2 トンまで成長し、黛青色の体をしています。その希少性から、生態や生き方については少ししか分かっていません。1 つ手がかかるのは、浜辺に打ち上げられた死体の多くに見られた、寄生虫および小型の深海鮫によるものと思われる噛み傷です。イチョウハクジラは更に減少しており、IUCN のレッドリストにおける絶滅危惧種に含まれています。